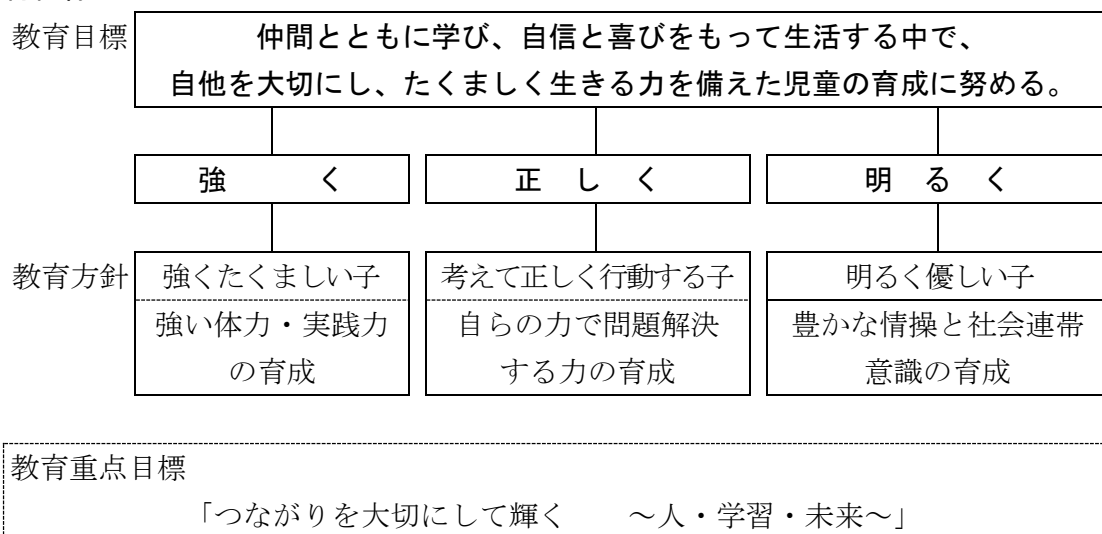


令和7年度 努力点推進計画

1 教育目標



2 本年度学校教育の努力点とその推進計画

進んで課題を探究する児童の育成

(1) 研究主題について

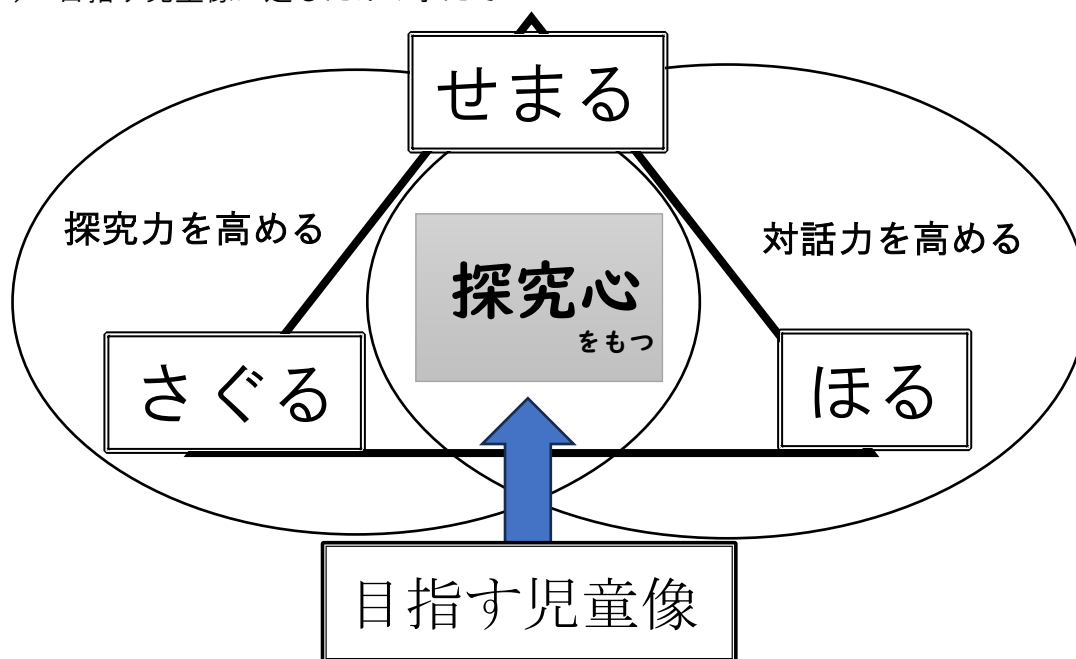
本校では、「進んで課題を探究する児童の育成」という研究主題のもとで、これまで培ってきた「対話力」のスキルを活用し、「さぐる」「ほる」「せまる」活動を通して、実践に取り組んできた。

昨年度は、特に「ほる」「さぐる」活動に重点を置き、児童が関心をもって課題に出会ったり、主体的に課題を見付けたりすることができるように、教材の提示や導入などを工夫して実践を行った。その結果、興味・関心をもって学習に取り組み、対話によって課題を追求しようとする様子が見られた。昨年度末の学校評価の結果では、80%以上の児童が、「仲間とともに学び、協力して学習に取り組むことができている」という項目で、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、進んで課題に取り組むという面において、一定の成果が得られたと考えられる。

しかし、児童自ら課題設定することが難しかったり、課題をどのように解決したらよいか困る児童の姿が見られ、自分で学びを進めようとしたり、自分の力を主体的に高めようとしたりすることまでには至っていない。児童が主体的に学ぶためには、「教師の働き掛け」が重要になってくる。児童の意欲を高める導入や教具、資料提示、さらには授業展開などの教材研究を高め、児童の学びに伴走する役割を果たしながら、児童が主体的に課題を見付けたり、自分なりの方法で課題解決したりする力を身に付けさせたい。

そこで、今年度は、課題の核心に「せまる」児童の姿をイメージしながら、児童に学ぶ目的や課題解決のゴールを示したり、学びに関わるより多くの決定を児童に委ねる自己決定や自己選択の場面を設定したりして、進んで課題を探究する児童を育てていきたい。

(2) 目指す児童像に迫るための手だて



児童の発達段階に応じて、以下に重点を置き、日常実践、授業実践に取り組む。

① 「さぐる」ための手立て

「さぐる」＝自らの課題を見付け、解決に向けて取り組む活動

児童が関心をもって課題に出会ったり、主体的に見付けたりすることができるようにする。

例) 気付きを引き出す教材の提示、導入の工夫、本物に触れさせる、タブレット、資料等の活用

② 「ほる」ための手立て

「ほる」＝対話を通して課題を追求する活動

R 5年度は、話し合い、対話活動を行い、素地を耕した。R 6年度からは、核心にせまるために、対話によって課題をほる。課題を追求するために、自分の思いや願いを伝えたり、対話によって自律して学ぶためのヒントを得たりすることができるようにする。

例) ペア・グループ・全体での話し合い活動

③ 「せまる」ための手立て

「せまる」＝「さぐる」「ほる」を融合し、課題の核心に迫る活動とする。

自分で学習方法を考えて取り組もうとする姿を引き出したい。その際、児童に学ぶ目的やゴールを示したり、学びに関わるより多くの決定を児童に委ねる場面を設定したりする。

例) タブレットの活用、本物の人・場との出会い

※ R 6年度は、「さぐる」「ほる」に重点を置き、教師が「せまる」を意識して引っ張っていった。R 7年度以降、児童自らが「せまる」に移行していけるようにする。教師としての役割は、課題提案、軌道修正。

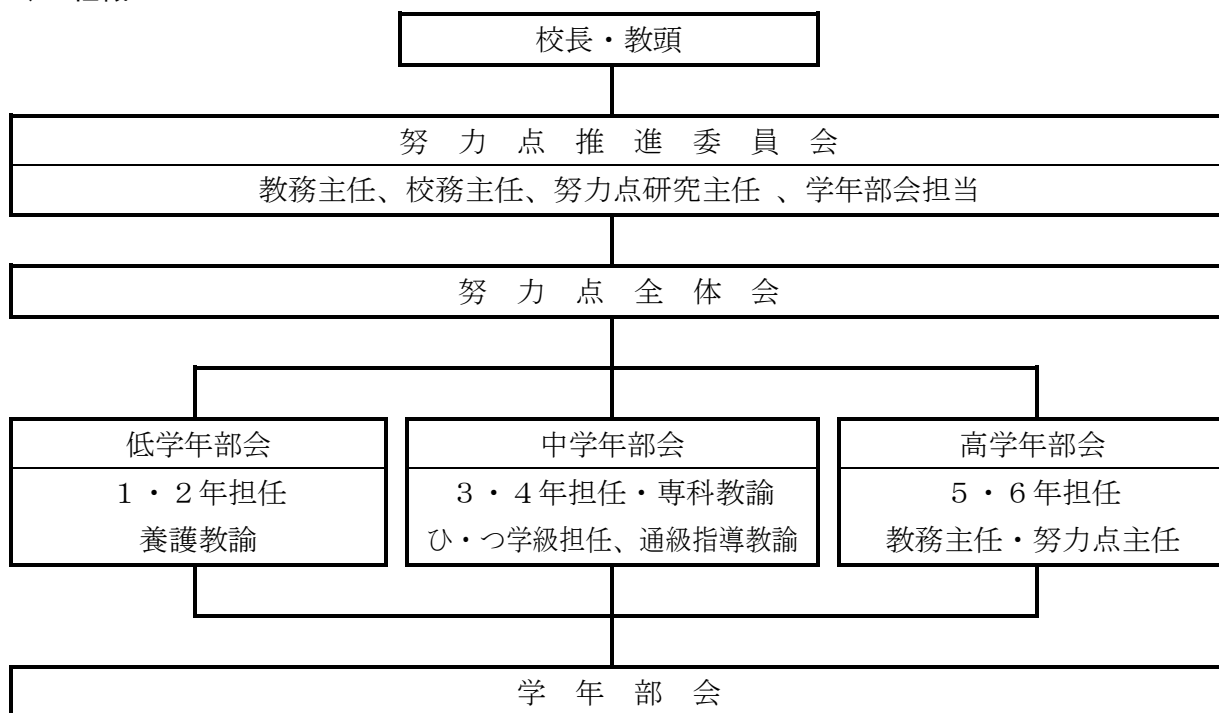
(3) 検証方法について

「さぐる」「ほる」「せまる」手立てについて、授業実践や児童の成果物で調査した結果から有効性を検証する。また、必要に応じて抽出児童を設定して検証したり、学校生活アンケートや教育相談アンケートを活用したりすることもできる。

(4) 環境の整備

教材・教具の整備、I C T環境の整備、プリント類の管理（データ）

(5) 組織



※ 中間報告、最終報告の際に部会を越えて検討したり、児童の変容を伝え合ったりする機会を設ける。

(6) 年間計画

4月	職・部：研究主題、基本方針の決定 全・部：研究推進の提案、部会の計画 学・部：実践計画の立案 全体授業者の決定	9月	部・部：授業研究 学・部： <u>中間まとめの作成（9/29提出）</u>
5月	全・部： <u>各学年の計画発表（5/8）</u> <u>（実践計画 提出締め切り5/1）</u> 部・部：授業研究	10月	全・部：中間報告会（紙上発表） 部・部：授業研究
6月	全：全体授業事前検討会（※1前期の場合） 全：全体授業、事後検討会 部・部：授業研究	11月	全：全体授業事前検討会（※2後期の場合） 全：全体授業、事後検討会 部・部：授業研究
7月	部・部：授業研究 全・学：1学期の取組の反省	12月	部・部：授業研究 全・学：2学期の取組の反省
8月	：文献研究、研究大会への参加等	1月	部・部：授業研究 学・部： <u>最終まとめの作成（1/29提出）</u>
		2月	全・部： <u>最終報告会（2/5）</u>
		3月	推・部：次年度の方向性の検討

(7) 研究授業について

- ① 年間で1人1回、努力点に関わる研究授業を行う。授業を行う時期は、計画的に行う。
- ② 事前に指導案（略案）を書き、実践の3日前までに全職員に配付する。
- ③ 授業の様子を動画で撮影し、後から振り返られるようにする。
- ④ できるだけ同じ実践部会内で参加し合うようにする。（他の部会の参観も可）
- ⑤ 部会内で事後検討会（約30分間）を行う。
- ⑥ 全体の中から代表を一人決め、全体代表授業を行う。加えて、同日の業後に、事後検討会（60分間）を行う。なお、代表授業については、指導案（略案）を基に、事前検討会（授業日の1週間前）を行う。（※1）全体授業は全体授業者が日程を選べることとする。
- ⑦ 全体授業者については、話し合いにより選出する。全体授業者は他の研修と兼ねてもよい。

(8) 計画書・報告書のまとめ方について

- ① A4用紙にまとめ、余白は上下左右2cm空ける。
- ② 各部会の計画は1ページ、中間報告は裏表で1ページ、最終報告は各学年で2ページになるようにまとめる。
- ③ 文字サイズは12ポイント。書体については、本文はMS明朝、項目はMSゴシックとする。句読点は「、」「。」「」に統一する。
- ④ 掲載する写真は、印刷機を通して見えるように、明るさなどを調整する。
- ⑤ 掲載するグラフなどの統計資料は、事前・事後が比較できるようにまとめる。
- ⑥ 掲載する図・表・写真・統計資料には、読み手に分かるような説明を端的に入れる。
（例：写真2 ペアで相談し合う児童の様子）
- ⑦ 資料を必要とする努力点全体会の1週間前までに、努力点主任に提出する。
- ⑧ 実践計画・中間報告・最終報告の項目立てについては、以下の例を見て記述する。
- ⑨ 最終報告は「学年のまとめ」を偶数ページ、もしくは各部会で偶数ページに調整する。

第〇学年 実践計画

- 1 第〇学年における目指す児童像
※ 「課題を探究する姿」に関するものを示す。
- 2 目指す児童像に迫るための手だて
※ 重点的な手だてに【重点】と加筆する。
 - (1) 「さぐる」力を身に付けさせるための手立て【重点】※例
 - (2) 「ほる」力を身に付けさせるための手立て
 - (3) 「せまる」姿の児童像
- 3 事前調査について
 - (1) 調査項目
 - (2) 調査結果
※ 調査した結果をグラフや図にして載せる。
 - (3) 考察
※ 調査結果を見て、課題やその原因について考察する。
- 4 研究授業の予定
○組 ○月○日 「単元名」 (時数)

第〇学年 中間報告 ―前期のまとめと後期の実践計画―

- 1 第〇学年における目指す児童像
※ 実践計画で示したものと同じ。
- 2 前期のまとめ
 - (1) 実践の様子
 - ① 「さぐる」力を身に付けさせるための手立て※例
 - ② 「ほる」力を身に付けさせるための手立て
※ 上記の手だてを講じた、これまでの実践の様子を記述する。
 - ③ 「せまる」姿の児童像
 - (2) 児童の変容と考察
※ 《考察の手順》例
 - ① 発言やワークシートの記述など、実際の活動の様子を基にして、子どもの「変容」を明記する。(具体的な姿や数値などから)
 - ② 変容が表れた理由を考えとして述べる。
→これが「考察」になります。
- 3 後期の実践計画
 - ・ 後期に向けての修正点
 - ・ 公開授業については、大まかな日程と単元をお示してください。

第〇学年 最終報告 — 1年間のまとめ—

1 第〇学年における目指す児童像

※ 実践計画で示したものと同一。

中間報告以降の実践報告にとどまることなく
「年間のまとめ」になるようにしてください。

2 実践の報告と考察

(1) 実践の様子

① 「さぐる」力を身に付けさせるための手立て

② 「ほる」力を身に付けさせるための手立て

③ 「せまる」姿の児童像

※ 上記の手だてを講じた、年間の実践の様子を記述する。

(2) 児童の変容と考察

※ 《考察の手順》例

① 発言やワークシートの記述など、実際の活動の様子を基にして、
子どもの「変容」を明記する。（具体的な姿や数値などから）

② 変容が表れた理由を考えとして述べる。

→これが「考察」になります。

3 1年間のまとめ

(1) 成果（児童の変容や実践を通して分かったことなど）

(2) 課題

前期と後期を比較しての
変容を記述してください。

資料 これまでの努力点研究主題

年度	テーマ	サブタイトル
H22～ H24	自分を豊かに表現する 子どもの育成（H22～ H23） 確かな学力をはぐくむ 教育活動（H24）	～話し言葉による表現活動を通して～（H22～H23） ～自分を豊かに表現する子どもの育成～（H24） ー話し言葉による表現活動の指導を通してー
H25～ H27	進んでかかわる子ども の育成	～あいさつ・交流活動を通して～（H25） ～かかわる良さが味わえる活動を工夫して～（H26） ～かかわり学び合う明徳文化の継承を通して～（H27）
H28～	自他のよさに気付き、と もに伸びる明徳っ子	～思いやりの心を育て、自己有用感を形成する手だての工夫～
H31	「できた！」「分かつた！」を実感できる算数 学習	
R2～ R4	豊かな言葉の使い手とな る児童の育成	「語彙力」を高める国語学習を通して（R2） 「対話力」を高める国語学習を通して（R3、R4）
R5	互いに認め合う児童の育 成	言葉をつなぐ活動に重点を置いて
R6～	進んで課題を探究する児 童の育成	「さぐる」「ほる」活動に重点を置いて（R6）